

特別講演は 辻村博夫 氏 ~3月2日 奥州めぐみネット総会開催~

会員の皆様には既にご案内のとおり、奥州市環境市民会議「奥州めぐみネット」平成25年度定期総会が3月2日（土）に開催されます。

当日は、午後1時30分から特別講演、その後午後2時40分から定期総会となります。

特別講演では、江刺区在住の辻村博夫氏から「農から学ぶ いのちの循環」と題してご講演をいただく予定です。辻村氏はなぜ東京を離れ岩手で就農したのか。「いのちの循環」とは何か。熱いお話が聞けます。会員以外の方のご参加も大歓迎ですので、友人・知人をお誘い合わせのうえご参加ください。

地球を愛するあなたのために⑤

タバコを喫うと、痩せられる？

ひと頃、「タバコを喫うと痩せられる！」なんて言われたことがありましたね。でも、街中でタバコを喫っている人を見ると、なんだかとても太ったり、または極端に痩せている人が多いな・・・そんなことを思ったことがないでしょうか。さてさて、本当のところはどうなのでしょう？

まずは右の表を見てみましょう。浜松医科大学が**89万人を対象**にして行った、タバコを喫う本数と体重の比較調査結果です。

非喫煙者から20本以下の喫煙者ではそれほどの差はないのですが、それ以上喫うと、どうやら体重がいきなり上昇する（実際に中度～高度肥満者が多く認められる）ようです。つまり、**タバコをたくさん喫う人には肥満が多い！**

それともう一つ気になることがありますよ。妊婦が喫煙した時の、おなかにいる赤ちゃんへの影響です。これについて近年、山梨大学医学部から驚くべき発表がなされています。

非喫煙者	60.9kg
禁煙者	61.5kg
喫煙者 毎日10本以下	60.8kg
毎日11～20本	60.7kg
毎日21～40本	62.2kg
毎日41本以上	63.4kg

出産した女性約1400人を対象に、生まれた子ども約1000人のデータをその後約10年にわたって追跡調査した。

その結果、妊娠3か月ないしそれ以前の時点で喫煙していた女性の子どもは、小学校4年生で肥満になる確率が、非喫煙者の子どもに比べて2.9倍高いとわかった。

これはゆゆしきことです。喫煙していた女性の子どもは、普通の子どもに比べて、肥満になる確率が3倍近く高い！ということです。（どうやら「妊娠中の喫煙が、胎児が将来的に脂肪摂取を好むよう体組織を修正しているらしい」-カナダ・ケベック州での研究より）。

つまり喫煙者は、自分だけでなく、子どもの肥満も決定しているのですね。

厚労省では、はっきりと「喫煙者の肥満は非喫煙者より多い」と言っています。男女とも喫煙本数が多くなるにつれて肥満が増加し、特に女性では男性よりも2倍以上の肥満が見られるそうです。このことから、「痩せるために喫煙する、タバコを止めたら太るという説には根拠はなく、逆に喫煙者は健康意識が低く、栄養の過剰摂取、運動不足の影響で太る人が多い」ということなそうです。

生活環境部会より

※ このコラムは、毎回、建部 信生活環境部会長が執筆しています。





冬の自然観察会

自然環境部会は、1月19日（土）に冬の自然観察会を開催しました。

県鳥獣保護員を勤められる菊地司さんと原子内貢さんのご説明をいただきながら、冬の乙女川に見られる野鳥を観察しました。



菊地さん（右）の説明に聞き入る参加者



今回観察できた野鳥は、多くはカモ類で、マガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモが見られました。また、数羽ですが、カワセミ、コサギを見ることもできました。

私たちが生活する場のすぐ近くに、野鳥が暮らす豊かな自然があることを実感した観察会となりました。

カルガモ以外は渡りをするので、見られるのはこの会報が発行される頃までです。散歩中などで見かけたら立ち止まって観察してみてもいかがでしょうか。

当日多く見ることができたカモ類



今回観察できませんでしたが冬鳥といえば・・・



（撮影 高橋代表）

水田からエネルギーを生む、米エタノール化事業とは？ 「バイオエタノール製造実証施設」見学

生活環境部会は、1月28日（月）に、現在奥州市が取り組んでいる米エタノール化事業の製造実証施設を見学しました。

この事業は、元々旧胆沢町が取組を始めたもので、水田と米づくりの技術を活かして、まちづくりや新たな雇用の創出、起業へ結びつけることを目的としています。

当日は会員3名が参加し、奥州市総務企画部政策企画課の職員や、市が業務委託している株式会社ファーマンテーションの方から説明を受けました。

この施設では、約1週間の工程で、米100kgと水240ℓから20～30ℓの99%アルコールを製造しているそうです。また、燃料用のアルコール製造だけでは採算が厳しいため、消臭スプレーとしての利用や、発酵米成分を配合した石けんの製造、ニワトリのエサとしての残渣の利用等、複合的な利活用についても商品化・実用化を図っているとのことでした。





「エコかつこいい風呂敷講座」

～めざせ風呂敷の達人～

環境学習部会は、1月16日（水）に会員及び市民を対象に「エコ風呂敷講座」を開催しました。（参加者21名）

当日は、講師に岩手県地球温暖化防止活動推進員の川辺弥生さんをお願いし、風呂敷の歴史・使用方法やレジ袋削減に関するお話をいただいたほか、最後に本講座のメインである風呂敷の包み方・結び方を学び、大変有意義な講座となりました。



作ってみよう、使ってみよう。

「あったか、鍋帽子講座」

家庭から省エネと笑エネを…

環境学習部会は、調理時間とエネルギーの節約にもつながる「鍋帽子®」を一般市民へ広く周知するため、「あったか、鍋帽子®講座」を皮縫い編と綿入れ編に分け、2度開催しました。（参加者7名）

「鍋帽子®」とは、「広島友の会」の方々が、エネルギーの節約を願って考案したもので、調理途中の鍋に帽子をかぶせておくと、いつの間にか美味しいおかずが出来上がる「魔法の調理グッズ」です。

当日は、講師に「水沢友の会」3名の方を依頼し、実際に皮縫いと綿入れを実践し、省エネにつながる鍋帽子®の普及を図ることが出来ました。



会員紹介

会員No. 団-17 / 生活環境部会、資源循環・廃棄物部会所属

『全国友の会 水沢友の会』 リーダー 齊藤 真樹子 さん

「友の会」は、月刊雑誌「婦人の友」の愛読者の集りです。発会から、今年で82年の歴史があり、公益財団法人全国友の会振興財団として認可されています。会員は2万人余です。「水沢友の会」はその中の一つの集りで、奥州市、一関市、平泉町などに在住する34人で構成されています。

「生活即教育」をモットーにし、毎日の生活の中から合理的生活を旨として勉強し合い、それをもって活動の基としています。

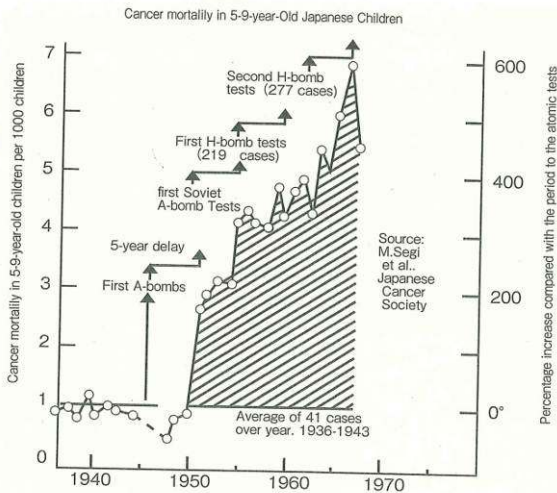
環境にやさしい生活を探して取り組んでいる鍋帽子®や、ネコ伴天の普及もその一環です。鍋帽子®は、原爆被災地、広島友の会会員が、原子力発電に頼らない生活を願い考案したものです。ささやかな工夫が活かされ、大きな力になりますよう願っています。



④低線量内部被曝の人体被害の実例

世界の歴史の中で、明らかにされてきた例は数多くあり、その中から3例を紹介します。

ア) 日本の子どもの5～9歳の小児がん死亡率



東北大学瀬木三雄教授が調査し、アメリカのスタングラス博士がグラフ化した例です。

戦前の小児がん死亡率を「1」と表すと、1945年の5年後 1950年に、死亡率が3倍になっています。何があったのでしょうか。

1945年は、日本の広島と長崎に原子爆弾が落とされた年です。即死された赤ちゃんもたくさんいたでしょう。幸い生き延びたのに、その5年後には、3倍もの幼児ががんで亡くなっているのです。

これは、降下した放射性物質を含んだ水や大気や埃を、飲み込んだり吸い込んだりして体内に取り込んだ内部被曝によって、がんを発症し亡くなったと考えられます。さらに、大地に落ちた放射性物質を吸い上げた野菜類や米、麦、果物、そして、水や牧草に取り込まれた放射性物質で内部被曝した牛や羊

等の肉や乳を飲んだり食べたりして子どもの体に蓄積した、内部被曝の影響と考えられます。

ところが、その後も、日本の子どものがん死亡率はぐんぐん上がります。そして、1968年には、とうとう。戦前の7倍近くになってしまいます。これは、なぜでしょう。アメリカやソ連等の大気圏内核実験の影響です。

この核実験に対して、世界の反対の声が高まります。アメリカのお母さん方は、抜け落ちた子どもの乳歯を集め、ストロンチウムの蓄積を示して反対しました。日本の女性科学者猿橋勝子さんは、核実験の度に太平洋上に落ちる放射性物質の微増を全世界に示しました。1963年、大気圏内核実験を禁止した「部分的核実験停止条約」が締結されると、その5年後には、小児がん死亡率が低下しています。

日本国内で、核実験をしたわけではありません。それなのに、日本の子どものがん死亡率が上昇するのです。ジェット気流に乗って日本の上空にやってきて、日本の大地に降下し、米や野菜や肉や乳、様々な物に取り込まれ、やがて、子どもの体に取り込まれてがんを発症し、亡くなってしまうのです。

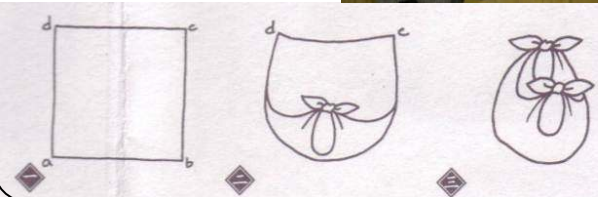
この例は、日本の子どもたちが、自らの死をもって私たちに教えてくれた、内部被曝の影響の大切な教えです。（続く）

ハッピーエコライフコーナー

ふろしきの便利な包み方をご紹介します。

＜お買い物包み＞

監修：ふろしき研究会



◇ つぶや記・あとが記 ◇

「めぐみネット」は3月からが新年度。この間、各部会を中心に24年度活動の総括を行ってきました。個々の事業は「大挙動員」には至らなかったけれども、結果は少数「盛栄」で着実な前進を遂げているのではないのでしょうか？ その辺りの苦労話が明るく交錯する3月2日の総会を、と期待です。そして会報でタイムリーに紹介が出来ればと思うのですが…。紙が限界であれば、あとは口コミ。「奥州エフエム」さんからもお力添えを頂いていますが、口コミで事業の成果を、新会員の勧誘を、とこれまた期待です。 安倍 進

事務局 奥州市水沢区大手町一丁目1番地 奥州市役所市民環境部生活環境課内

電話 0197-24-2111 / ファックス 0197-51-2374 / メール seikatsu@city.oshu.iwate.jp

ホームページ http://www.city.oshu.iwate.jp/html/kankyos/osyu_siminkaigi.html